

Foto de Tiquicia No. 11

撮影: 足立力也

マミジロミツドリ



英名 : Bananaquit
学名 : Coeraba flaveola
分類 : ツバメ目マミジロミツドリ科
体長 : 9cm
生態 : メキシコからブラジルまで広く生息する一種一属の鳥と考えられています。コスタリカでは海拔0m地帯から標高1500mくらいのところにまで生息しており、割とよく見ることができる鳥です。この個体は、コスタリカのカリブ海側にあるグアピレスという街で宿泊したホテルの建物内に迷い込んだ一羽。夜でも明るいホテルの光に誘われて飛び込んできたのでしょう。重さ10gくらいの小さな鳥です。

コスタリカ写真集「プラビッシマ! II」(弊所にて絶賛発売中!)より

コスタリカツアー、今年も盛況催行!

**自由・人権・民主主義・環境を学ぶ
コスタリカ・ピース&エコツアー**

昨年9月に引き続き、今年は8月9日~17日の日程でコスタリカ・ピース&エコツアーを催行いたしました。参加者は、ゴリラ研究で有名な山際壽一・京都大学元総長をはじめ、自治体議員や作家、大学教員など6名でした。

首都サンホセ近辺でのスタディツアーと、郊外のエコ・ローカルツアーの2段構成という組み合わせは、これまで同様です。

コスタリカの首都サンホセでは国立博物館、国会、最高裁判所(憲法小法廷)、選挙最高裁判所、国立子ども病院を訪れました。その前に革命発祥



ケツアールを発見! 思わず魅入られる参加者たち

の地であるアシエンダ・ラ・ルチャ博物館を訪れ、ケツアール探訪にもチャレンジ。サンホセ訪問後はカリブ海側のトラピチュ統合農園を訪れ、弊所が同農園と提携して展開する生物回廊農園「なまけもの通りみち」を見学。道中、サンホセとカリブ海側を結ぶ国道が行き帰りともに通行止めとなり、予定の2倍から3倍かけて往復するというトラブルに見舞われながらも、無事完遂しました。次ページでは、「農園」に焦点を当てて今回のツアーの様子を報告いたします。

今号の主な内容:

P2: 農園から考えるコスタリカ

P3: カレン・オルセンさんを偲ぶ



国会議事堂・「元大統領の間」にて集合写真

農園を通して考えるコスタリカの進化

1 ページ目に記したように、今回のツアーでは総合地球環境学研究所所長で元京都大学総長の山極壽一名誉教授も参加されました。ゴリラ・霊長類研究で有名な山極先生の視点は、ツアー中さまざまに反映され、ガイドをした代表理事足立にも大きな学びとなりました。

山極先生は帰国後、8/24の京都新聞に「軍隊も原発もない国を訪ねて」というコラムを寄稿しておられます。彼にとってのコスタリカ紀行のキーワードは「農園」だったようです。確かに、このツアーでは農園や元農園を多く訪れました。

まず、現地日程初日に訪れたアシエンダ・ラ・ルチャ博物館。ここは、1948年にホセ・フィゲーレスが革命を起こした地です。もともとフィゲーレスはここで農園を営んでおり、その土地に革命のための資源を蓄え、会合をこなし、計画的に反政府革命を起こしたことが、博物館の展示を通して理解できます。博物館には、当時フィゲーレスが発明した農業用機器や、革命の評議会が討論したテーブル、軍隊廃止記念式典で要塞の壁を打ち壊すのに使ったハンマーなどが展示されていました。現代コスタリカを形作った原点が、この農園にありました。



お客様とお揃いのNo Army シャツを着て、軍隊廃止記念式典で使ったハンマーを前に



今回の観察ツアーで見つけたケツアールの雄

来て、毎朝ケツアール観察ツアーを催行しています。このツアーのケツアール遭遇率はなんと97%！「幻の鳥」を求めて人が集まるはずです。

次に訪れたパライソ・ケツアールも、やはりもともと農園でした。森林を伐採して建材や枕木として売り、イチゴ類などを育てて農業を営んでいたセラノ家は、ある時ここがケツアールの生息地であり、それが観光客を呼ぶことに気がきます。そこから彼らは、ケツアールが好む「アグアカティージョ」の木を植林し始めました。長年の努力の甲斐あって、今ではロッジ2軒を経営してケツアール観察に世界中から訪れる観光客を受け入

周囲の農家たちもそれに呼応するように植林を始めました。もともと農業で暮らすのは非常に厳しいものです。しかし、自分の農地に木を植え、ケツアールがそこに舞い降りて、観光客を呼び込んでインセンティブを得る方が、環境的にはもちろん、経営的にも得策だと気がついたのです。今では地域一帯の農家がアグアカティージョの木を植え、毎朝ケツアール観察ツアーが始まる前にセラノ家と情報交換をして、ツアーで必ずケツアールを観察できるようにするネットワークが形成されています。

セラノ家の3代目であるホルヘ・セラノは、地域一体をケツアールの生物回廊とすることに尽力し、現在はロッジオーナーの他に副市長も務めています。彼は、自分が受けた環境教育がこのような事業を展開する大きな動機となったと語ります。農産物を生産するだけが農園経営ではなく、自然共存型の植林を進める形での農園経営もありうるのだ、そしてそれは成功するのだというロールモデルを示した彼の功績は、極めて大きなものがあります。

最後はやはり、弊所が企画・運営する生物回廊農園「なまけものの通りみち」です。専門の類人猿ではないとはいえ、サル類が観察できるとあって、山極先生も興奮気味でした。ここではホエザルとクモザル、まれにノドジロオマキザルが観察できます。通常、ホエザルとクモザルは縄張りを異にし、共存することは珍しいそうです。しかしこの農園では、両者が同じ縄張りを共有しています。そこにフタユビナマケモノも住んでいます。



ナマケモノ（左）の側を通り過ぎるように木の上を渡るホエザル（右）。こんな光景は、他ではなかなか見られないようです。これは、この地域の森林が彼らにとって狭すぎるということも示しています。だからこそ私たちは、この農園に植林をし、人間と彼ら野生生物たちが共存できる場所を作ろうとしているのです。それも、セラノ家の実証したように、自然共生型農園の成功のロールモデルとなり、まだ化学薬品を大量に使って慣行農業を続けている周囲の農家も私たちのように自然共生型の経営に移行してもらい、生物回廊を地域全体に広めたい。そんな夢を持っています。

コスタリカは野生生物の楽園ともいわれます。ですが、その実情は厳しく、豊かな自然環境を回復する努力が続けられています。平和主義も度々危機にさらされています。それでも平和主義の環境先進国を成り立たせている実情を、皆さんも実際に見に行ってみませんか？次回ツアーは来年7月に催行を計画中です。興味のある方は最終ページ掲載の弊所連絡先からぜひご一報ください！

コスタリカの「国母」、カレン・オルセンさんを偲ぶ

2025年9月25日、革命によって現在のコスタリカ「第二共和制」を打ち立てたホセ・フィゲールス・フェレル（1990年没）の妻、カレン・オルセン・ベックさんが逝去されました。代表理事足立は彼女と2000年から交流を持っており、幾度となくお世話になりました。ここに深い哀悼の誠を捧げます。

彼女は生前、フィゲールスの妻として、「オルセン・デ・フィゲールス」という姓を名乗っていました。革命家であり元大統領でもあるカリスマ的「国父」の妻として4人の子どもを産み育て、それぞれが後世のコスタリカでも活躍しています。例えば長男マリアーノは司法長官を務め、次男ホセ・マリアは大統領になっています。娘のクリスティアーナは国連気候変動枠組条約締結国会議議長として2015年のパリ協定を妥結に導き、不可能を可能にした人として国際的に注目を集めています。

フィゲールスの遺志を後世に伝えていくことが、彼亡き後の彼女のひとつのミッションでもありました。ことあるごとに関連行事に顔を出し、多くの人に平和のメッセージを精力的に伝え続けてきました。

ら強調してもしすぎることはありません。

中でも特筆すべきは、1980年代の中米紛争を和平に導いた「ファーストレディ外交」でしょう。コスタリカ近代史の中に埋もれていたこの事実を、足立は2000年に直接カレンさんから聞き取り、著書「丸腰国家」などで発表したことで世に知られるようになりました。詳細は同書に譲りますが、女性だからこそ、母親だからこそ武力紛争を和平に導けるという発想は、まず男性からは出てきません。女性と平和というキーワードは深く結びつくものだという、最も説得力のある実例です。



1986年、2回目のファーストレディ会談にて
左から2番目の女性がカレンさん

ある日、足立が彼女の家を訪れた時のこと。カレンさんは開口一番「日本の若者の自殺率が非常に高いと聞きました。どうなっているんですか？」と私に詰め寄るように、しかし悲しげな眼で問いかけてきたことがありました。日本社会の閉塞感に暴力を感じていたのです。

日本は、犯罪率こそ低いものの、「見えない暴力」はコスタリカより大きいと感じます。いじめやセクハラ、パワハラ、DVなどが、隠れたところで蔓延しています。カレンさんはそんな現状に対し、女性の力が輝いてこそ平和な社会が訪れると説いていました。女性や母性で平和を築いてきたカレンさんならではの遺志を弊所も継いでいき、実践していく所存です。



カレンさんの自宅にて、代表理事足立と



2012年、軍隊廃止60周年記念式典にて
革命戦士たちと同席するカレンさん

そのようなことから、「英雄の妻」「元大統領の母」という側面が強調されがちなカレンさんですが、自身国会議員も1期務め、特に貧困問題や女性問題などの解決に尽力したことで知られています。たとえば、男性が女性の子どもを認知しない割合が高かった問題に対して、「父権責任法」を提案しました。これは、「母親が指名した男性に国費でDNA鑑定を受けさせることで法的に父親としての義務を果たさせる」という仕組みです。これによって、子どもの認知率は急激に上昇しました。また、イベロアメリカ地域の貧困女性の社会的地位向上を目指す国際組織を主導するなど、貧困撲滅から平和を創造する活動も続けてきました。「〇〇の妻（母）」ではない、カレンさん自身の自律的・積極的な活動は、いく

資料室から～“伝説の男”の、ふたりの妻

代表理事が、一昨年の渡航の際に現地書店で仕入れた”Casada con una leyenda : Don Pepe” (左)。スペイン語のこのタイトルを直訳すると「レジェンドとの結婚：ドン・ペペ」。



Don Pepeは、軍隊を廃止したコスタリカの第32・34・38代大統領、ホセ・フィゲレス・フェレール(1906-1990)の愛称(というのは前回も触れましたね)。原著(英語版)があるな、という私の呟きを覚えていた代表理事が、今回の渡航で右の”Married to a Legend : Don Pepe”を仕入れてきました。

著者はHenrietta Boggs、ヘンリエッタさん(1918-2020)。ご自身による回顧録だそうです。あれ?前のページで代表理事が追悼していた奥さまは、カレンさん(1930-2025)…では?

そうなんです、ヘンリエッタさんは、カレンさんの前にフィゲレスの妻だった方。1941-1954年の間にMuniさん、Martíさんというふたりのお子さんが生

まれました。その後フィゲレスが再婚したのが、カレンさんだったのです。フィゲレスには二人の奥さまがいらしたんですね。

1948年にフィゲレスが軍事蜂起し、暫定政権を樹立し、軍隊廃止を宣言した時の奥さまは、このヘンリエッタさんだったのです。

ヘンリエッタさんのことはコスタリカではもちろんよく知られていて、この回顧録を元にしたドキュメンタリー”First Lady of the Revolution”やミュージカルもあり、後者は現在も上演されているようです。

『レジェンドとの結婚』、初版は1992年。弊所では2022年に改版されたものを所蔵しています。おそらくフィゲレスの死を機に出版され、ヘンリエッタさんの死を機に改版されたのでしょう(Muniさんによる序文あり)。そして偶然、カレンさんのご逝去を知った直後にこのコラムを書くことになりました。

カレンさんのご冥福を、資料室からもお祈りいたします。

(資料室司書 Cegua)

*”First Lady of the revolution”
予告編は右記QRコードからご覧になれます。



研究所年間サポーター／「けもみち」支援者大募集中!

当研究所は、不確かで不安な未来に対し、希望ある将来を提示するための**社会科学的調査・研究**を、「丸腰国家」から「持続可能国家」へと変貌を遂げようとしている**コスタリカ**という国を通じて行う、**独立した民間の機関**です。

当研究所では皆様からの「**公共投資**」として、年会費を拠出していただく**年間サポート会員を募集**しています。会員の皆様には、機関紙やメルマガなどで「未来志向の社会実験」を続けるコスタリカの最新情報をお届けします。



弊所公式サイト



Facebook



メール



その他、会員限定の特典や割引などもございます。当研究所の趣旨にご賛同いただける方は、ぜひ会員となってお支えいただければ幸いです。年会費は下記口座にお振り込みもしくはオンライン(弊所公式サイト)にてお支払いいただけます。

また、常時ご寄付も受け付けております。銀行振込の他、弊所公式サイトではクレジットカードやPayPalでのお支払いもできますので、ご活用ください。また、弊所が企画運営するコスタリカの生物回廊農園「**なまけもの通りみち**」へのご支援もどうぞよろしく願いいたします。皆様のご支援をお待ちしております!

「なまけもの通りみち」ご支援
お申し込みは以下QRコードから!

■各種振込先

・福岡銀行

博多駅前支店

(普) 3423080

・ゆうちょ銀行

記号: 17480

番号: 81944571

名義: 一般社団法人コスタリカ社会科学研究所



編集後記: 今回のコスタリカツアーは旅行代金の高騰もあり、不安なスタートでしたが、無事催行できました。もちろん来年も催行する予定です。「軍隊のない社会」「環境先進国」の実情を、自分の目で確かめてみませんか? 次回は7月の予定ですが、6名以上集まればいつでも催行できます。ぜひご検討を! (足立)

<発行>

一般社団法人 コスタリカ社会科学研究所

〒812-0011

福岡県福岡市博多区博多駅前2丁目19番17号

トーカン博多第5ビル 312号室

info@costa-rica.jp